

東日本 APM ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第475号 2013. 10/ 5

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324
発行人 高橋 廣

目 次

今年度の前期技能検定実技試験について… 1	テレビジョン技術の今後(四季)…………… 3
永年勤続等従業員表彰者の推薦ご案内…… 2	事務局レポート…………… 4

今年度の前期技能検定実技試験について (プラスチック成形職種 1.2級射出成形作業)

首席技能検定委員 須 崎

東京都から毎年委嘱を受けて実施している、平成25年度国家検定である前期技能検定(プラスチック成形職種)実技試験が、去る平成25年8月18日(日)の製品採点をもって終了しました。

今年度の射出成形実技試験受検申請者数は射出成形作業では1級69名、2級92名の計161名ですから、昨年度の申請者数より1級で2名、2級で11名、計13名減少しています。又最近の傾向ではありますが、総体に占める1級受検者の比率は42.9%(昨年度の比率は40.8%)で従来に比べ増加しています。

今年度も、試験会場をご提供頂いた「東京都立中央・城北職業能力開発センター板橋校(以下板橋校と記載)」様をはじめ、ご協力頂いた技能検定委員・補佐員の皆様、成形機メーカー並びに受検用樹脂手配にご尽力頂いた協力企業・材料メー

カー等々、誠に数多くの皆様の温かいご支援・ご協力を賜り、特に大きな事故・怪我なく無事終了致しました。誠に有難くこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて其れでは、今年度東京都実技試験の実施状況を振り返って見ましょう。

まず日程ですが、平成25年8月2日(金)に会場準備、検定用金型の事前トライに始まり、実技試験は翌3日(土)から17日(土)まで連続15日間実施し、又製品採点を8月10日と18日の2回に分けて実施いたしました。

次に今年度の実技合格率ですが、1級36.8%、2級49.4%(何れも欠席者を非計上で算出)で、昨年度は1級24.3%、2級は61.4%ですから、1級は大幅に向上、逆に2級は大幅に後退しています。又過年度の合格率累計は1級32.5%、2級58.5%で

すから、そもそも1級の合格率には年度毎で多少のバラツキが有るものの、かなり良い方と言えるでしょう。これに対して近年2級の合格率は60%台をキープし寧ろ増加傾向に有ったことから見ても、今回の結果は成形に携わる者にとっては極めて残念です。

其れでは技能検定と射出成形の作業現場との関連について、上記の合格率をキーワードに、私見を述べてみたいと思います。当然のことですが技能検定試験は「試験の為の試験では有りません」、検定試験は「決められた時間内に、一定レベルの成形品を提出しなければ合格しない」訳ですから、此れに合格する為には、正に日頃行っている「生産計画」「成形コスト」「成形品質」等々をクリア出来る技能が必要です。そしてその技能のレベルとして3級から1級に至る3段階の基準が定められています。

よく、「自分が所属している会社ではきちんと成形しているのに、検定試験が合格出来ない。」という言葉が耳にします。そう思われている方は、是非自分が行った検定試験中の作業を思い起こして下さい。そして「きちんと成形している」と言っている日常の作業と、検定中の作業で何処に相違があるかを考えることが肝要です。必ず違う点がある筈です。そしてその相違点は受検者十人十色と思いますが、大別すれば、日常の作業は唯決められた条件を遵守しているだけとか、良品で有るか無いかに関し自分なりの判断基準が確立されていないとか、一連の作業工程に対し其々自分でシミュレーションした時間内に出来ているのか否か

のチェックとかに集約されるのでは無いでしょうか。

今回残念ながら合格出来なかった方は、この小文を参考にして頂き、日常の作業の中で自分が目指すクラスの技能を身に付けて頂く供に、その技能が試験中十分に発揮出来るよう事前準備を行われるよう期待します。尚、蛇足ながら事前準備に関し今回特に目立った点を付け加えます。其れは1級のレポートです。今回レポートで減点が無かった1級受検者は25名（比率36.8%で偶々合格率と同じ）しかおりません。毎回レポート減点さえなければ合格された方が1名程おられますが、今回は4名もおられました。レポートは事前に公表されている課題です、レポートの事前準備は必ず行って下さい。

この小文が掲載される頃には合格発表が行われているかと存じます。今回晴れて合格され技能士となられた方にとって、真価が問われるのは正に此れからです。又今回残念ながら実技試験をクリア出来なかった方は、来年度は見事突破される事を期待します。

尚、来年度も恐らく試験会場の関係から受検申請人数制限は避けられないと思います。工業協会では平成26年3月初旬から受付を開始します。極力早く申請手続きされるよう宜しくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、今年度技能検定実技試験にご支援ご協力頂いた多くの皆様に厚く御礼申し上げますと共に、来年度の実施に当たりましては何卒宜しくお願い致します。

「永年勤続等 従業員表彰者」の推薦のご案内

毎年実施しています標記表彰者のご推薦につきまして下記の通りご案内申し上げます。

- 【申込方法】** 従業員様のうち、対象者がおられる場合、是非お申込下さい。
APMニュースに同封の申込書類を記載のうえ、当協会宛にご郵送戴きます。
問合せ先：電話03（3541）4321 担当：高橋
- 【表彰方法】** 当協会会長名による表彰
- 【表彰種類】** ※勤続10年以上お勤めになり、表彰に値する従業員様です。表彰状は11月中旬に送付予定です。
※なお、例年併せて行って参りました貢献者表彰につきましては、今回のみ募集はお休みさせていただきます。
- 【申込費用】** 無料です。

テレビジョン技術の今後（四季）

リーマンショックから5年、プラスチック成形品の大顧客である自動車業界は省エネを核とした差別化技術、生産技術力、さらにアベノミクスによる円安の効果も加わり業績が大幅に回復している。もう一つの大顧客である電気電子業界はスマートホン関連の健闘はあるものの、同業界の牽引役たる薄型テレビが地デジ切替需要の終焉と海外メーカーの攻勢で未だ回復途上にある。

そこでテレビに関する技術動向を探ってみる。既に市場に投入されているものを含め、新しいテレビ技術としては、(a) 3D対応テレビ、(b) 4Kテレビ、8Kテレビ、(c) ウエアラブルテレビ(ウェアブルコンピュータ)、(d) スマートテレビ、等がある。

(a) 3D対応テレビ：

2010年ごろ次世代のテレビとして鳴り物入りで登場した。中国では政府の後押しもあって増加途上であるが、日本・欧米では相次いで3D放送を打ちきっている。英国では昨夏のロンドン五輪を含む複数の番組を3Dで放送した。しかし3D番組の制作を年内で打ちきる英国放送協会(BBC)の責任者は3Dが予想より普及しなかった理由の一つとして、専用眼鏡の必要性から、いわゆる「ながら視聴」のむずかしさを挙げている。

(b) 4Kテレビ、8Kテレビ：

デジタルテレビの画素数(水平×垂直)は、ハイビジョン=1,366×768、フルハイビジョン=1,920×1,080、4K(ウルトラハイビジョン)=3,840×2,160、8K(スーパーハイビジョン)=7,680×4,320、であり4K/8Kはフルハイビジョンと比較して、それぞれ4倍/8倍の解像度となる。4Kテレビは国内複数のメーカーや韓国・中国のメーカーも発売しているが、視聴できるコンテンツは少なく、電送方法を含む関連規格も未整備である。

普及の牽引を担う日本でのテレビ放送は2014年ワールドカップ・ブラジル大会で4K試験放送開始、2016年リオデジャネイロ五輪で8K試験放送開始、2020年五輪で8K本放送開始と計画されてきた。

今回2020年五輪の東京開催が決定し、この計画が前倒しされることが期待される。しかし4K/8Kの優位差を実感するには50インチ以上の大画面を必要とし現状価格で約50万円とフルハイビジョンの2倍強の価格である。価格、設置スペースの両面から普及はなかなか難しいと想像される。

(c) ウエアラブルテレビ：

テレビジョンの範疇ではなく、コンピュータに

分類すべきとも思われるが、通信回線と接続し動画やインターネットを視聴できる機器であることと、次項に述べる様に今後テレビとコンピュータの結合が必然となるなかで市場拡大が期待される機器である。

意味するところは「着られる」「身につけられる」テレビ/コンピュータであって、眼鏡型商品のグーグルグラスは既に試用に供されており、腕時計型商品がサムスンから発表され、アップルは仕様未公開ながら「iWatch」を世界で商標登録している。

(d) スマートテレビ：

すでに日米欧・韓国の家電メーカーやケーブルテレビ会社から「スマートテレビ」の名称で各種の商品が発売されている。基本的な機能はテレビ放送の視聴はもとよりインターネットに接続することによって、各種のコンテンツを視聴可能とし、パソコンの様に検索や双方向通信ができるものである。なおこの機能はテレビだけでなく通信会社のセットトップボックス、一部の映像ディスク再生機、一部のゲーム機にも装備されている。

現状の「スマートテレビ」の仕様は各社まちまちである。そこで総務省は、放送とウェブを連携させる新しいサービスとしてのスマートテレビを推進するために「スマートテレビの推進に向けた基本戦略」を策定し平成24年6月12日に発表した。

すなわち新しいスマートテレビは、「放送・ウェブ連携」、「多様なアプリケーション・コンテンツの提供」、「端末間連携」の3つの基本機能を具備し、「ユーザー本位の安全・安心なサービスの提供」、「民間主導による協業」、「国際標準に則ったオープンな技術規格等を通じて多様なメーカーとコンテンツ事業者が参加できる事業環境の構築」を推進するというものである。

ところが、最近日本のあるメーカーが発売する「スマートテレビ」のテレビCM放送を民法各社が自粛した。理由は電波産業界(ARIB:日本の通信業界、放送業界、製造メーカーで構成する携帯電話やデジタル放送に関する規格策定を行う業界団体)の規約に違反するとの判断。それはテレビとして販売する以上はテレビの電源を入れるとまずテレビ放送のみが表示されるのが好ましく、テレビもネットのアイコンも同時表示するこの商品は視聴者が番組とネット情報を混同しかねないと言うものである。

インターネットが登場した当時から期待されてきた「放送と通信の融合」の難しさを示す事例である。

(案山子)

事務局レポート

■第331回理事会議事録

1. 日時 平成25年9月11日(水)
15時00分～16時30分
2. 場所 東日本プラスチック工業年金基金
3階会議室

3. 出席者

大野 泰昭	大井 英一	大塚 一郎
佐藤 昭	池下 龍	鈴木 幸雄
竹下 富男	安達 七郎	川野 幸博
嶋田 修二	内藤 隆夫	大川 哲郎
長島 勝敏	齋藤 森作	滝口 裕
飯高 一郎	肥後 武重	小松 幹也
小林 輝男	池添 亮	
小野 勝彦(代理 高沢正広)	高橋 廣	

以上出席22名(理事総数32名)

古澤 正弘 野邊弘一郎 以上監事2名

4. 会長挨拶

理事の皆様には残念な報告がございます。永年、当協会の本部副会長・監事さらにJPOの会長をしていただきました(株)イガラシコーカの五十嵐会長が先月中国で逝去されました。今年の7月の納涼会に出席された時が最後になってしまいました。本当に残念です。謹んで哀悼の意をささげ「黙とう」をしたいと思います。皆様お手数をおかけしますが、起立をしていただきたいと思ひます。「黙とう」有難うございました。

さて、9月は旧暦で「長月」と言ひます。日ごとに涼しくなり、夜がようやく長くなる月の意味で「夜長月」の意味からきているとも言ひられます。

「世界に羽ばたくブランドを増やそう」という記事が新聞に掲載されていりました。国内の景気は上向き企業業績も悪くないようですが、日本企業が以前の強さを取り戻したわけではありませぬ。アジア企業には激しく追い上げられ、収益力では欧米に見劣りしていります。もう一度世界で輝くために何をすべきか。

「ブランド力の向上こそ大きなカギである」日本企業はよく「技術で勝って事業で負ける」と



言われますが、その典型が時計産業だそうす。過去半世紀にわたり腕時計の技術革新をリードしたのは、間違いなくセイコーグループをはじめとする日本勢だったそうす。だが今では市場を見ると、圧倒的な存在感を示すのはスイス企業だそうす。おひざもとの日本市場でも国産ブランドの金額のシェア23%に対しスイスブランドは66%を占め、世界市場での差はさらに大きいそうす。

技術に出遅れたスイス企業は1990年代以降ブランドを磨くことに専心し復活したそうす。スイス最大手のスウォッチグループは高級品の「オメガ」から若者向けの「スウォッチ」まで独自の歴史と個性を持つ20ブランドを展開し、幅広い消費者の心をつかんだそうす。

「いいものを安く」を長年追及してきた日本企業はブランド作りが得意とはいへない。長い歴史や伝統のある欧米企業は勿論として、サムスン電子のようにブランド力で日本企業をしのぐアジア企業も現れました。強いブランドとはなんだろう。単に「品質がいい」「高機能」というだけでは不十分だそうす。それに加えて「かっこよさ」や「驚き」「感動」「親しみやすさ」といった人間の感性や情緒に訴える魅力が必要だそうす。

目に見えない「おもてなしの心」もブランドを育てる素地になるそうす。ブランドを作ることは簡単ではありませんがいつかは世界に通じるブランドを育てて、世界に羽ばたく夢をもって大きく前進したいものです。

本日も理事の皆様にはご審議していただく事項が多数ございますのでスムーズな進行をお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

5. 議事録署名人

議長は定款第34条により、古澤正弘監事を議事録署名人に指名し、了承された。

6. 議 事

議題1. 経過報告

(1) 役員会等の開催

7月12日 第330回理事会・納涼会

7月12日 第4回記念事業委員会

以上、八重洲富士屋ホテル

(2) 部会・委員会の開催

① 技能検定運営委員会

7月20, 21, 27, 28日 機械操作説明会

8月3～17日 前期(射出成形)実技試験

板橋校

8月10, 18日 製品採点会議 板橋校

9月3日 主任検定員会議 板橋校

② 能力開発推進委員会

7月13, 14日 実技講習(Cコース) 板橋校

③ 青年経営研究会(JPO)

7月18日 役員会 東日本協会会議室

8月29日 役員会・勉強会・納涼会

東プラ基金会館・三浦屋

④ 技能士会

8月24日 若手勉強会 板橋校

⑤ 製品技術部会

8月22日 東京都産業技術研究センター

見学会(3Dプリンター他) 同所

(3) 支部会

7月19日 城南支部会 東天紅・高輪店

9月3日 品川支部会 東天紅・高輪店

(4) 全日本プラ連合会

8月6日 事務局会議 名古屋・安保ホール

議題2. 会員の入会・退会承認の件

(1) 退会の部

賛助会員 1社

① 会社名 (株)山城精機製作所

退会理由 親会社(株)ミライアルの意向

議題3. 創立50周年記念事業の件

本理事会の前に開催された第5回周年記念事業委員会の審議内容を踏まえて、専務理事から資料に沿って説明。

(1) 式典・講演・祝賀会

事務局、正副会長は式典開始1時間前に集合、正副会長の服装は略礼服(白又はシルバ



(第5回記念事業委員会)

ーのネクタイ) その他役員はスーツ。福引番号札は半券を予めボックスに入れておく。受付登録の際に半券を当人へ渡しておく。

表彰式では、対象人数が多い、会員歴が長い賛助会員30社、検定関連受章者(11名)は代表受賞者を表彰し、あとは名前のみ読み上げる。

鏡割りの樽酒は1/4でお願いする。福引司会は、嶋田理事にお願いする。

予算面について、特に意見はなし。

(2) 記念誌

記念誌の内容については特に異議無し。

賛助広告の出足低調、役員各位の支援下、専務理事から再度お願いを試みることにする。

(3) 記念ゴルフ

9/11現在、参加者は40数名、しめきりまで10日程あり少しでも多く声をかけていくこととした。各賞、参加賞などについては特に異議はなかった。

【報告事項】

・連合会の行事

理事会開催(平成25年10月3日(木))

16時～17時30分)

会場=名古屋国際ホテル

4地区対抗ゴルフ(翌10月4日(金)、富士カントリー・可児コース)

連合会創立50周年記念式展の開催

平成26年1月28日(火)、帝国ホテル

・モノづくり試作・開発補助金制度(終了)

・JETRO:新興国進出支援(専門家派遣事業)

・消費税転嫁対策措置法資料

・次回第332回理事会:平成25年11月13日(水)

基金会館にて開催。

以上をもって、第331回理事会における審議を終了し、議長は16時25分、理事会の閉会を宣した。